Race Report

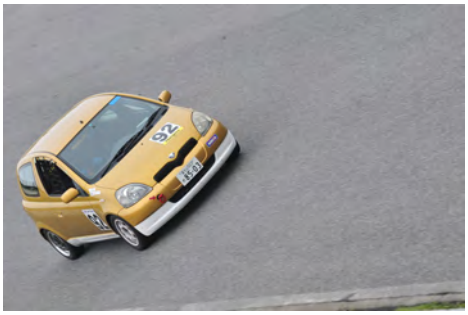
2014　GT 耐久東海シリーズ　第 3 戦　2014 年 7 月 13 日

「4時間耐久　激走の先に！」

やはり強かった！　ランクも首位をキープ＃70

3 戦連続 2 位で、次こそは！　＃11

ニューマシンで 3 位！　ポテンシャルは　＃15



同車種対決では負けられない　＃92

2014K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第 3 戦が愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。第 3 戦は”特盛”4 時間耐久となっておりいつもよりもハードな戦いが待ち受けている。幸いにして午前中の雨は何とか上がり予選時に多少の水たまりが散見される程度となっている。

「１＋２Ｃ」クラス（1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車、1501cc～1600cc の NA 後輪駆動車のクローズドクラス）

5 台が出走のこのクラスに、注目のニューカマーが登場。#15「シャトー・ラ☆フィット」型式は GE8、先代型の前期 RS の 5MT というベース車。とりあえず足回りとシート類を外した仕様。チームは OP クラスでスターレットターボを走らしていたが「新たな可能性を」とのことでクラス＆マシンをチェンジ。GT 耐久では初見参のマシンの走りはどうか。
それを迎え撃つのは#70「トータルセブンGTシビック」、#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」などの猛者たちだ。

■予選

予選トップは#70「トータルセブン GT シビック」1’08.622、まだウエットの路面でこのタイムは立派、全体でも 7 番目だ。2 位は#92「ワンナイヴィッツ」が 1’12.819、3 位は注目の#15「シャトー・ラ☆フィット」1’12.962、LSD がなくトラクションに不満とのこと。4 位は#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」1’12.999 前戦 2 位だけにここからの追い上げに注目。最後尾は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」3’37.435 と十分に走れなかったが決勝進出。

■序盤

序盤は#70「トータルセブン GT シビック」と#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」のトップ争い。一発の速さは#70「トータルセブン GT シビック」に分があるが、#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」もしぶとく粘る。それに絡みたいのが#15「シャトー・ラ☆フィット」で 3 位をキープ。#92「ワンナイヴィッツ」と#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」は同車種対決を抜け出したい。

■中盤①

中盤においても戦いの構図は変わらず、#70「トータルセブン GT シビック」に#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」が挑む。ピットタイミングの関係で#11 マーチが先に出ることもあるが、やはり#70 が一枚上手か、その差は広がっていく。
表彰台争いはフィット VS2 台のヴィッツという構図。ドライになってくるとフィットが差を広げ、3 位のポジションを確保する。

■中盤②

終盤に向かってさらに差を広げようとする#70「トータルセブン GT シビック」に対し 3Lap ほどのビハインドの#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」。ワンチャンスをものにするには置いていかれたくはない。
それは 3 位争いも同様、#15「シャトー・ラ☆フィット」がヴィッツに対し 3～4Lap の Gap を保っている。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■終盤

終盤にかけてもトップを守る#70「トータルセブン GT シビック」はうまくレースをコントロール。2 位以下に4Lap ほどの差をキープし完全に掌握した模様。
#11「ガレージアンリミテッド　マーチ」と、#15「シャトー・ラ☆フィット」はポジションキープか無理にペースをあげたりはしない様子。途中ペナルティなどもあったがレースの大勢に影響を与えるほどではない。

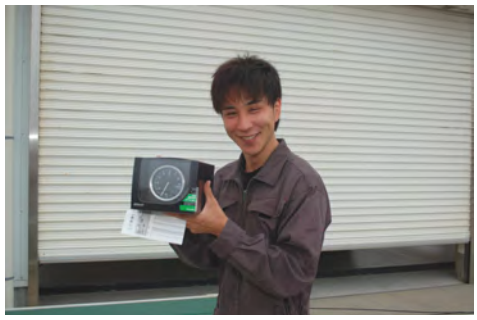
■最終結果

結局#70「トータルセブン GT シビック」は 2 位に5Lap 差をつけてほぼパーフェクトな勝利で開幕戦に続いて 2 勝を飾った。2 位には#11「ガレージアンリミテッドマーチ」で 3 戦連続の 2 位という結果、あと一歩が待ち遠しい。3 位には#15「シャトー・ラ☆フィット」が入り、ニューマシンをポディウムまで運んだ。
4 位はヴィッツ対決を制した#92「ワンナイヴィッツ」、5 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」も完走周回数を余裕でクリア。

■総評

#70「トータルセブン GT シビック」が 2 戦ぶりの頂点に立ったわけだが、やはり注目は#15「シャトー・ラ☆フィット」。「シェイクダウンもいいところですよ(笑)」とチーム関係者が語るように、足回りのセットアップもまだまだ煮詰められるとのことで今後速さの面でも期待できる。現状レース中の最速タイムはギリギリ 7 秒台で EK3 あたりと比べても 2 秒前後の差がある、LSD がないことでコントロールに難ありともいわれ、軽量化も含めての課題のようだ。

タイムは上がってきている　#46



©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

ついに本命が来た！今季初優勝　#62

またまた　頂点ならず　#450

ニューマシンを初表彰台へ　#110

雨が降れば･･･　　#111

「３Ｃ」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

いまやGT耐久東海シリーズ最大の激戦区となっている3Cクラス、今回も9台の出走。しかもどのチームも実力のあるチームだけに、今回もかなりの激戦・熱戦が期待される。

■予選

午前中の雨はあがったもの路面はウエットで行われた予選。そこでトップは #87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」1’07.141、このクラスもハットトリックの可能性があり#87 には 40 キロのウエイト。そのなかでの予選トップはさすがだ。
2 位には予選 2 位は#450「トルネオの大冒険」1’07.280、ここのところ予選も上位となっており、あとは悲願の初優勝を果たすのみ。
3 位は#110「DXL アライメント浜松レビン」1’07.317、こちらもすっかり乗りこなしてきたようだ、あとは優勝が欲しい。4 位は#106「D&M スパイクオート 106」1’07.327、パワーでは少々苦しいが、雨が降ればチャンス到来だ。
5 位#62「WN CLNシビック」が 1’09.994、逆にこちらは追い上げるパターンか。
6 位#１１１「S’tecAE-1 ファジートレノ」1’10.499、こちらも雨が降れば上位進出の可能性が増える。7 位#75「DXL シーワン EP82」1’10.973、こちらは気温が低ければ熱の心配は少ないか。
8 位#33「ボディショップ國盛ミラージュ」1’11.354、チームの力からするとこの位置は本意ではないようだが、見る方からすれば追い上げも楽しみだ。そして 9 位は#107「トータルセブンロードスター」でタイムは 1’11.824、過去 2 戦トラブルなどもありながら完走と着実に成長の跡が見られる。

■序盤

まず序盤トップに立ったのは#110「DXL アライメント浜松レビン」。前車シティの時以来の久々の首位、タイミングボードの一番上に＃110 のゼッケンが掲示。
とはいっても猛者ぞろいのこのクラス、独走は許してはくれない。2 位以下も団子状態で追走。#33「ボディショップ國盛ミラージュ」、#１１１「S’tecAE-1 ファジートレノ」、#62「WN CLNシビック」あたりが上位をうかがう。
一方#450「トルネオの大冒険」、#106「D&M スパイクオート 106」などは早めのピット作戦か。
そんなかで、優勝候補で昨年から 3 連勝中の#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」が早々のリタイヤで、赤旗の要因を作ってしまった。

■中盤①

優勝候補が序盤で姿を消したことで、レースはより混戦模様。まずトップ争いでは#110「DXL アライメント浜松レビン」と#62「WN CLNシビック」がほぼ同ペースで周回を伸ばすが 3 位以下は#450「トルネオの大冒険」から#33「ボディショップ國盛ミラージュ」まで 5 台が 1Lap のなかに並ぶ。2 時間 80Lap 以上を走ってこの僅差というのが、いかに混戦模様か。
心配なのは#107「トータルセブンロードスター」、今回はトラブルフリーと行きたかったがマシンから白煙が･･･パワステフルードとのことでピットでの修復作業となる。

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■中盤②

レースも残り一時間、この時点でトップに立つのは#62「WN CLNシビック」135Lap を走行。追いかけるのは 2 位#110「DXL アライメント浜松レビン」133Lap、3 位#450「トルネオの大冒険」132Lap、4 位#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」130Lap、5 位#33「ボディショップ國盛ミラージュ」130Lap、6 位#106「D&M スパイクオート 106」128Lap。この辺りまでが表彰台をかけての争い。
トラブルを抱えながらも今回も完走を目指す#107「トータルセブンロードスター」は 111Lap。#75「DXL シーワン EP82」は 110Lap を走ったところでスロー走行でそののちリタイヤとなってしまった。

混戦の中しぶとく 5 位 ＃106

■終盤

さあレースも終盤戦、トップは#62「WN CLNシビック」で 2 位に 3Lap の差をつけているが、2 位から 6 位までは 2Lap 差の中に！タイミングボードでも3C クラスが数珠つなぎ、まさに混戦。天候こそ回復傾向が明確にはなっているが、何かがあれば順位は大きく変わる。スプリントの公式戦やワンメイクでもここまでの接近戦はないと思われる混戦に、各チームも緊張と興奮に包まれる。2 位争い、そして表彰台をかけた最後のスティントに向かう。

こちらも混戦のなかポイント Get ＃33

■最終結果

4 時間という長丁場のレースを見事制したのは、#62「WN CLNシビック」。中盤から終盤にトップに立つと、後続との差をうまくコントロールしての今シーズン初優勝。2 位は今回もあと一歩とどかず#450「トルネオの大冒険」。3 位は最終盤のスピンも再スタートで事なきを得た 2 位#110「DXL アライメント浜松レビン」がニューマシン初の表彰台に。
4 位はポディウムまで 1Lap 足りなかった#111「S' tecAE-1 ファジートレノ」、5 位は#106「D&M スパイクオート 106」、6 位は#33「ボディショップ國盛ミラージュ」、そして 7 位は#107「トータルセブンロードスター」で 3 戦連続の完走。

今回も傷つきながら完走 ＃107

マシントラブルでリタイヤ ＃75

開幕ハットと昨年からの 4 連勝を狙ったが ＃87

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

まさに混戦・熱戦

■総評

真夏の耐久とはいかなかったが、相変わらずの混戦・熱戦でアツい戦いだったことは確かだ。何しろトップから 5 位までが 5Lap の差で、中団はほとんど同一周回なのだからいかにこのクラスの実力が拮抗しているかがわかる。
国内外のホットハッチ、スポーツクーペ、それも 80 年代から 2000 年代初頭までと、”コントロールできる”マシンが揃うこのクラスの魅力がつまったレースだった。
近年の電脳ハイテクマシンや、軒並み（日本でいう）3 ナンバークラス＆高出力になってしまった C セグメントスポーツにはない、汗をかく走りがユーザー嗜好にあっているのではと思う。新車が走るメーカーのレースとは違うが、このあたりに次の商品のヒントが隠れているのでは・・・

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

開幕に続き 2 勝目！　＃19

嬉しい初ポディウム！　2 位　＃1

しぶとく走って 3 位！　＃58

「ＯＰ」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

開幕2戦を終えて、#18「T-BODYエクセルインテグラ」と#19「YADOKARIシビック」が同点で並び（ポイント規定により#18が暫定首位）、接戦となっているOPクラス。第3戦にはこの両チームを含む5台が出走。第2までマシンが間に合わなかった＃45「インフィニティー昭和なFX」が乾いた4AGサウンドともに登場。

■予選

今回も予選は#18「T-BODY エクセルインテグラ」、ウエットのためかタイムは 1’06.145 だが、全体の PP を獲得。その横につけたのは#19「YADOKARI シビック」1’06.544 とコンマ 4 秒弱の差で 2 位。
予選 3 番手は#58「小林板金 EG6」1’10.587、4 番手に注目の＃45「インフィニティー昭和な FX」が 1’12.504、5 番手は開幕のリタイヤから復活した#1「ミュルサンヌ MR-S」が 1’13.686 となった。

■序盤

#18「T-BODY エクセルインテグラ」と#19「YADOKARI シビック」が序盤から激しいトップ争い。1 時間走行してもその差は 10 秒以内というしびれるバトルを展開。さすが、今シーズンを引っ張る 2 チーム。
3 位は#1「ミュルサンヌ MR-S」が単独走行、自分のペースを保ちながらしっかりと周回をこなす。4 位は#58「小林板金 EG6」、ドライバーラインナップの関係からか、タイムにばらつきがあるものの徐々に周回が増えている。
昭和ないでたちで注目された＃45「インフィニティー昭和な FX」だったが、エンジンがストールしてしまいやむなくリタイヤ、乾いたサンドを聴くことができなくなってしまった。

■中盤①

中盤でもトップ 2 台は激しいつばぜり合い、この展開が続くかと思われた。が、#18「T-BODY エクセルインテグラ」はマシントラブルでストップ、75Lap 走ったところでリタイヤとなってしまう。
これで順位は#19「YADOKARI シビック」がトップ、2 位には#1「ミュルサンヌ MR-S」と変わった。

■中盤②

盤石となった#19「YADOKARI シビック」だが、油断はできない。＃18 と同様にいつトラブルが襲うかはわからない、それが耐久なのだから。それは 2 位#1「ミュルサンヌ MR-S」も同様、細心の注意を払ってのドライビングが続く。3 位はリタイヤした#18 の周回数を上回り、#58「小林板金 EG6」が上がってきた。

■終盤

#19「YADOKARI シビック」は 2 位以下に 10Lap のギャップを保ちトップを独走、あとはゴールを目指すのみ。2 位はこれも単独走行となった#1「ミュルサンヌ MR-S」、しっかり走って初表彰台を目指す。3 位も単独走行の#58「小林板金 EG6」、こちらは完走規定周回数という目標に向かって一周でも多く周回を重ねたい。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

途中までは激しいトップ争いを演じ、第 2 戦の VTR を見るようだったが、主役の一つ#18「T-BODY エクセルインテグラ」が途中リタイヤしてしまう形で、トップ争いは決着。#19「YADOKARI シビック」が開幕戦に続く今季 2 勝目を挙げて、シリーズ争いをリードした。

2 位には#1「ミュルサンヌ MR-S」が嬉しい初表彰台を Get し、3 位には規定周回数をクリアした#58「小林板金 EG6」が見事完走、こちらも嬉しい初ポディウム。

PP からスタートしたが　#18

■総評

やはり耐久は何が起きるかわからない、そんなレースだった。しかしながら#18「T-BODY エクセルインテグラ」の速さはやはり特筆すべきで、今後も激しいバトルが見られるに違いない。

一方、表彰台にはフレッシュな顔が並ぶことに、特に#1「ミュルサンヌ MR-S」は開幕戦でのリタイヤからの復活で、喜びもひとしおだ。

さて本来のポテンシャルを発揮する前にリタイヤしてしまった＃45「インフィニティー昭和な FX」だが、そのサウンドは印象的だった。車歴からいえば四半世紀ほど前の”旧車”ともいえるマシンが元気に走る姿を見てみたい。

残念、こちらもリタイヤ　#45

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.